

「感動・ふれあい ～自然，人，仲間～」

東広島市立風早小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流 社会奉仕

体験場所・宿泊場所 廿日市市・県立もみのき森林公園

【学校紹介】

本校は、穏やかな瀬戸内海から約600mあまり内陸に入ったところにある。

安芸津町はおだやかな内海があることから奈良時代の海上交通での要港として栄え、かつて遣新羅使の一行が詠んだ2首が万葉集におさめられている。この歌を刻んだ「万葉歌碑」や当地の陶芸家製作の「万葉陶壁」が近くの神社の境内に建てられている。

また、本校の南西にある「保野山」の中腹には、びわやみかんの果樹園、頂上には、平成2年につくられた「万葉灯」があり、毎年11月の祭りに合わせて、「万」の字が点灯され夜を彩っている。平成23年度に、山に囲まれた大田小学校、海辺と島の小松原小学校と統合し、地域が大きく広がった。

本年度は、学校教育目標を『「すなおな心」と「がまんする力」～日々、感動～』とし、学校・家庭・地域が協力して教育活動に取り組んでいる。

○校長名：澤田 直哉

○児童数（学級数）：253名（13学級 特別支援学級を含む）

○所在地：東広島市安芸津町風早 789 番

○電話番号：0846-45-0052

○URL：<http://www2.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/~kazahaya-sho/index.htm>

【体験活動のねらい】

- ・自然に親しみ、自然の雄大さ、よさを知るとともに自然体験活動を通して心身を鍛える。
- ◎きまりを守り、友だちと協力して集団生活を行うことを通して、協調性や主体性を育む。
- ・宿泊先の地域の人々との交流や出会いを通して、コミュニケーション能力などの人間関係形成能力や、感謝の気持ちなど豊かな心を育てる。
- ・友だちとの関わり合いを通して、互いのよさを認め、支え合おうとする学年、学級集団を育てる。

【指導計画】年間総時間数（51時間）

活動展開	活動内容の概要	実施時間数	教育課程上の位置付け	活動の場所	指導者
事前学習	○体験活動について	6月（1時間）	学級活動	学校	担任
	○体験活動と関連させた内容項目について	6・7月（3時間）	道徳	学校	担任
	○学習テーマの設定、下調べ、班別の目標設定	6・7月（8時間）	総合的な学習の時間	学校	担任



集団 宿泊 活動	集団宿泊活動 ○沢登り・登山体験・ナイトウォーク ○神楽交流体験 ○清掃活動体験 ○飯ごう炊さん・薪割り ○家族への手紙	7月20日(金) から 23日(月) 【3泊4日】 (24時間)	学校行事	もみの木 森林公園 協会	学校職員 地元ボランティア 体験活動指導員
事後 学習	○体験活動と関連させた内容項目について	9月(3時間)	道徳	学校	担任
	○テーマに基づく活動のまとめ、成果発表の計画・資料作成	9・10月 (6時間)	総合的な学習の 時間	学校	担任
	○体験活動の意見文など	9月(2時間)	国語科	学校	担任
学習発 表会	学習成果の発表会 成果発表 学習発表会 作品展示 メタセコイヤ文化祭	11月(4時間)	総合的な学習の 時間 国語科	学校	担任

【体験活動の概要】

○神楽交流体験

1日目の夜、「吉和子ども神楽団」のみなさんが演じてくださる子ども神楽を鑑賞した。5歳の小さな子どもから同世代の子どもたちまでが、地域の伝統文化を継承していこうとしていることを知り、自分たちの地域の文化を見直す機会となった。

また、鑑賞後の交流会では、大太鼓、小太鼓、篠笛、しゃぎり、手打ち金などの楽器を演奏する体験をしたり、衣装を着たりした。神楽団の子どもたちへの質問も多く出て、交流を深めることができた。

吉和子ども神楽団の子どもたちは、難しいせりふを覚えたり、たくさんさんの楽器を演奏したりしていました。一つの作品が仕上げるまでに長い期間をかけて、毎週集まって練習をしていることを知りました。「神楽の練習をやめようと思った事はありません。」と言っていたのでおどろきました。自分たちの地域の伝統文化を大切にしているのだなと思いました。神楽の言葉はちょっとむずかしくて分からない言葉もあったけれど見ていて楽しかったです。



○自然体験

〈沢登り体験〉

1日目は、瀬戸の滝を目指して、指導者の引率のもと2グループに分かれて沢登り体験を行った。緑に囲まれた自然の中、冷たい水の中に入り、ごつごつした岩を乗り越えたり水の流れに逆らって登ったりする活動は、初めて体験した子どもが多く、意欲的に活動できた。流れの急な場所では手をつないだり、怖くて歩けない子どもには友だちが一緒に付いて登ったりして、仲間との関わりを深める活動であった。水しぶきを上げながら流れていく滝の中に入った児童は、感嘆の声をあげていた。五感を通して自然を感じる事ができた活動であった。



沢登りは、水がとても冷たかったです。テレビで見るような段々になっている石の風景を見て、自然の中にいるなと感じました。川の流れにおされそうになったり、石ですべって体のあちこちを打ったりして大変でした。そんな時は仲間と手をつないで支えあい登り切りました。滝つぼは吸いこまれそうになってどきどきしました。(児童の作文の一部より)

〈登山体験〉

3日目は、指導者の引率のもと、標高 1,339m、広島県で二番目に高い冠山に登った。途中で「サンショウウオ」を見せていただいたり、山の植物の解説をしていただいたりした。

木の根がむき出しになっているでこぼこ道や急な斜面、登っても登っても見えてこない頂上に対して、座り込む児童や涙を出す児童に対して、「がんばろう。一緒に頂上まで行くよ。」と声をかけたり手を引いたりする姿が見られた。全員で山頂に着いたときにはみんなで大きな声を上げて喜び合った。子どもたちの関わりを深める活動であるとともに、困難に対して立ち向かいあきらめずに達成した時の喜びを感じることができた活動であった。



○施設清掃活動

最終日にボランティア活動を設定した。お世話になったもみのき森林公園のみなさんや自然に対して感謝の気持ちを表す一つの行動として、「来た時よりもきれいにしよう」という目標をもち、施設周辺の清掃活動を行った。子どもたちからは、「きれいになって嬉しいね。」「見えにくいところにゴミがあったよ。ちゃんと捨てないと、せっかくの緑の自然が汚れていくわ。」などの声が聞こえてきた。グループごとに分かれ、小さなゴミから大きなゴミまで熱心に拾い集め、隅から隅まできれいに清掃することができた。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○自由律俳句の製作（総合的な学習の時間・図画工作科）

野外活動の一番の思い出を自由律俳句に表し、その様子を絵で表現した。できた作品は、学校と地域が一体で行うメタセコイヤ文化祭で発表した。

○家族について考える（道徳の時間）

・授業内容

資料名 「お父さんのおべんとう」 4－（5） 家族愛

ねらい 家族の幸せを考えて、進んで役立とうとする心情を育てる。

・授業における留意点

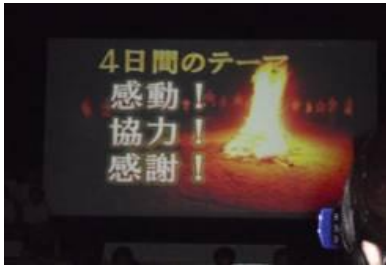
野外活動で感じた家族への思いを深めるために、展開後段では、野外活動3日目の夜に家族からの手紙を受け取った児童の様子をビデオで流した。ビデオでは、家族の思いを感じ、感動して泣いている子、照れ笑いをしている子、笑顔になっている子、家族と離れて寂しさがこみあげている子など、子どもの様子が映し出された。また、野外活動最終日に子どもたちが話していた「家族に会いたい。」「楽しかったけどやっぱり家が落ち着く。」「おいしいご飯を食べたい。」などの言葉も思い出させるようにした。

・児童の反応

家族が自分のことを大切に思い、育ててくれていることを改めて感じさせることができた。また、家族のために少しでも役に立つことや手伝いをしたいと発言している児童が多かった。

○学習発表会（総合的な学習の時間・国語科・学校行事）

野外活動の3つの目的である「感動・協力・感謝」について感じたこと、考えたこと、学んだことを伝えるために学習発表会で、活動の成果報告を行った。子どもたちがセリフを考え、台本を作成し「自分たちが感じたことをみんなに伝えよう！」を目標に練習し、発表を行った。学習発表会では、他学年の児童や保護者・地域の方を対象に発表を行った。



【交流先や施設等との連携】

- 事前の下見において、施設担当者と打合せを行ったり、現地視察や状況の確認などを行ったりした。
- 活動プログラムの作成において、学校、施設の指導者で協議し調整を図った。
- 活動内容や指導、流れなどについて、引率教職員で確認会議を行った。
- 児童のアレルギーなどに係わる食事内容、待機場所や部屋の確認を行った。

【評価の工夫】

- 「体験活動のしおり」を活用し、「感動・協力・感謝」に視点を決めて振り返りを行い、自分の思いや成長、友だちのよさに気付かせるとともに、次の活動への目標を持たせるようにした。また、「時間を守れた」「あいさつができた」「仲良く協力して活動できた」「最後までやりきることができた」「班のめあてが達成できた」「自分のめあてが達成できた」の6点について自己評価を行い、次の日の目標を明確にさせた。
- 野外活動体験後に、思い出の作文を書かせたり、道徳の授業で発表や感想を交流しあったりすることで、子どもたちが感じたこと、考えたことを見取った。
- 学習発表会で活動報告を行った。原稿作成や練習で体験を振り返らせるとともに、保護者からの評価もいただいた。

【安全面の配慮事項】

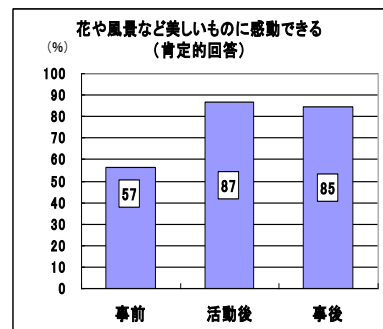
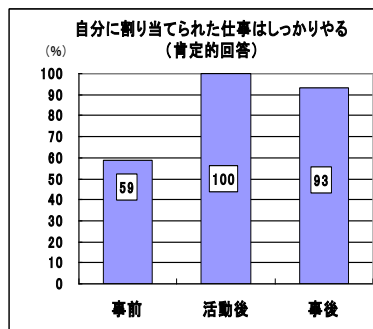
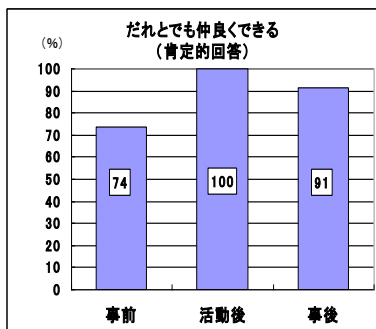
- 事前の下見を行い、施設担当者と安全面に係る配慮事項について打合せを行った。また、周辺の医療施設の確認を行った。
- 活動中は、熱中症対策に特に留意し、飲料水の確保や水分補給を計画的に行なった。
- 過密なプログラムにならないよう、ゆとりあるプログラムを計画した。
- 事前に「児童の健康調査」用紙を配付し、児童の健康状態の把握や緊急時の保護者への連絡方法を取りまとめ、現地で適切な対応ができるようにした。

【体験活動の成果と課題】

- 3泊4日の野外活動は、学校で一日過ごす生活や家庭生活とは違い、朝起きたときから寝るまでのすべての活動を仲間とともに行った。それは、決まりを守ったり、友だちと話し合ったり協力した

りする力の育成や、自分の思いをがまんしたり相手の思いを受け入れたりして行動する人間関係形成能力の向上にもつながった。風早小学校の学校目標にもある「すなおな心」「がまんする心」を改めて学ぶ場となった。

- 児童は、友だちと数多くの感動体験を共有することで、仲間意識や助け合うことの大切さ、やり遂げることの素晴らしさを学ぶことができた。
- 学校生活ではなかなか味わうことのできない、自然を肌で感じながら学ぶという直接体験をしたことは、子どもの感性を揺さぶる経験となった。
- 児童は、家族と離れて生活し、「家族からの手紙」を読むことにより、家族の愛情を改めて感じ、感謝の気持ちを持ったり手伝いをしたりするようになった。



- 体験活動で学んだことから、自分の地域を大切にするという気持ちを持たせたいと考えていたが、「自分が暮らす地域のために何かをしたい」というアンケートの結果の数値に大きな結果が見られなかった。体験活動から地域活動への単元構成の見直しや意識付けを行う。